

令和5年度 夏期インターンシップ生（長期）受入れ予定一覧表

| 番号 | 受入れ部署 | | 受入可能期間 | | | 留学生 | 受入れ対象 | 受入れ可能人数 | 実習内容 | 備考 |
|----|-------------|------------|-----------|-----------|---------|-----|-------|---------|--|--|
| | 局・部・グループ | チーム・班・担当 | 自 | 至 | 受入れ最低期間 | | | | | |
| 1 | 技術推進本部 | 先端技術チーム | 令和5年7月3日 | 令和5年9月29日 | 1週間以上 | 不可 | 院・学・高 | 2名 | <ul style="list-style-type: none"> 実験計画・準備の補助 実験中の計測補助、実験後のデータ整理・解析、結果の検討 技術相談等への同席、資料作成補助 なお、以下に関連する実験等を予定している。 <ul style="list-style-type: none"> 建設機械の自動運転に向けたシステム開発と動作実験 インフラ管理施設(水門、ポンプ等)の状態把握手法の改善 | 受入れ可能期間(令和5年7月3日頃から同年9月29日頃まで)について、学会等の都合により受入れできない期間が発生する恐れがございます。受入れができない期間とご希望の実習期間が重なってしまいましたら、実習時期についてご相談させていただきますのでご了承ください。 |
| 2 | 地質・地盤研究グループ | 施工技術チーム | 令和5年7月21日 | 令和5年9月30日 | 1週間以上 | 不可 | 院・学・高 | 1名 | 次のいずれかの作業を実習内容とする。 <ul style="list-style-type: none"> 降雨の路盤への浸透に関する実験、データ整理補助 道路盛土の排水施設設計に関する解析、データ整理補助 セメント改良土の力学試験結果、化学分析結果の整理補助 | |
| 3 | 流域水環境研究グループ | 流域生態チーム | 令和5年7月3日 | 令和5年8月31日 | 1週間以上 | 可 | 院・学・高 | 2名 | 環境DNA種特異分析による魚類の分布評価を題材に、水試料のサンプリング、遺伝子分析、取得データの整理・解析および考察を行う。 | 日本語または英語による意思疎通が可能なこと。 |
| 4 | 流域水環境研究グループ | 水質チーム | 令和5年8月7日 | 令和5年9月15日 | 2週間以上 | 不可 | 院 | 1名 | 以下のいずれかに関連した内容を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ダム貯水池・湖沼の水質モニタリング技術の検討 センサーやマルチスペクトルカメラ等の技術によるダム貯水池・湖沼の水質モニタリング手法に関する検討を実施する。 気候変動下におけるダム貯水池・湖沼の水質影響の検討 将来の気候変動下におけるダム貯水池・湖沼等の水質変化を予測・評価する手法等に関して検討を行う。 栄養塩管理運転の影響評価方法に関する検討 栄養塩管理運転が放流先に与える影響の評価方法に関する検討を行う。 | 実習ではプログラミングを行う内容になるため、一定のプログラミング知識・経験があることが望ましい。 |
| 5 | 流域水環境研究グループ | 自然共生研究センター | 令和5年7月1日 | 令和5年9月30日 | 1週間以上 | 不可 | 院・学 | 2名 | 魚類、水生昆虫、付着藻類などの河川生物に関する定期調査(大河川、中小河川、実験河川等)、実験河川を用いた大規模操作実験、実験室での基本的な生物のソーティングやPCRなどの分子生物学実験、仮想空間構築の基本的な作業、3次元レーザーなどを用いた測量、取得データの打ち込み・整理。 | |
| 6 | 河道保全研究グループ | 水工チーム | 令和5年8月28日 | 令和5年9月15日 | 1週間以上 | 不可 | 院 | 1名 | <ul style="list-style-type: none"> 橋脚周辺河床の3次元測量データの処理 橋梁周辺河道の河床変動計算 被災事例に関する机上分析 | |
| 7 | 河道保全研究グループ | 水工チーム | 令和5年8月28日 | 令和5年9月15日 | 1週間以上 | 不可 | 院 | 1名 | <ul style="list-style-type: none"> ダム水理模型実験 実験データ分析等 可能であれば現地調査 | 現地調査について、公共交通機関を利用する場合は、公共交通機関の利用料金を支給できないため、実習生若しくは大学負担可能であれば実施。土木研究所の公用車に同乗する分については、負担なし。 |
| 8 | 河道保全研究グループ | 河道監視・水文チーム | 令和5年7月1日 | 令和5年9月30日 | 1週間以上 | 可 | 院・学・高 | 1名 | 画像解析を用いた表面流速計測について。 | |
| 9 | 水災害研究グループ | | 令和5年8月21日 | 令和5年9月1日 | 1週間以上 | 可 | 院・学 | 2名 | 洪水に関するリスクマネジメントを支援するための観測・分析・評価の手法・技術を、具体事例を通じて習得する。 想定される作業(実習)内容 <ul style="list-style-type: none"> 衛星データを活用した降水データの時空間解像度の高度化 降雨流出氾濫モデル(RRモデル) 中小河川における水位予測 仮想現実(VR)を用いた仮想洪水体験システム ハザードマップ 気候変動予測 など | 実習生が確定次第、実習内容と実習時期に応じて確定する予定。 |
| 10 | 橋梁構造研究グループ | | 令和5年8月1日 | 令和5年9月29日 | 1週間以上 | 不可 | 院・学・高 | 3名 | <ul style="list-style-type: none"> 道路橋メンテナンスに関する研究紹介および研究立案の体験 撤去床版を用いた電磁波レーダー探査の実施補助 PC桁端部はつり実験用の桁製作業務補助 ドローンを活用した鋼橋の点検検討のための模擬試験の計画及び実施補助 疲労亀裂や腐食減肉が生じた鋼部材の非破壊調査・計測技術の実施補助 音波探査技術を用いた水中の基礎形状把握試験補助 | 実習生が見学可能な特筆すべき活動 <ul style="list-style-type: none"> 撤去床版を用いた電磁波レーダー探査 ドローンを活用した鋼橋の点検検討のための模擬試験 疲労亀裂や腐食減肉が生じた鋼部材の非破壊調査 音波探査技術を用いた水中の基礎形状把握試験 特記事項 <ul style="list-style-type: none"> 具体的な実習内容や実習計画については、実習生の希望、学習状況、業務の進捗状況等を踏まえたうえで決定します。 受け入れ時期、期間の詳細は御相談ください。 上記の特筆すべき活動については、受け入れ時期、期間によって必ずしも見学できるとは限りませんので御承知ください。 |

令和5年度 夏期インターンシップ生（長期）受入れ予定一覧表

| 番号 | 受入れ部署 | | 受入可能期間 | | | 留学生 | 受入れ対象 | 受入れ可能人数 | 実習内容 | 備 考 |
|----|------------|------------|----------|-----------|---------|-----|-------|---------|--|---|
| | 局・部・グループ | チーム・班・担当 | 自 | 至 | 受入れ最低期間 | | | | | |
| 11 | 材料資源研究グループ | 先端材料・高度化担当 | 令和5年7月3日 | 令和5年9月29日 | 1週間以上 | 不可 | 院・学・高 | 2名 | 各種土木材料（FFP、塗料、補修材料、アスファルト、セメント系材料など）の化学分析、物理試験などによる性能評価。 | 化学系学科あるいは物質系学科（分析化学、物理化学、無機化学、有機化学、高分子化学、材料化学、物質工学、化学工学、環境化学、農芸化学など）の学生に限ります。 大学院学生の方も応募可能です。 担当者の都合により、作業内容により受け入れできない期間があります。 |

※ 研究企画課 夏期インターンシップ生（長期）担当（TEL：029-879-6751、mail：saiyou-kikaku@pwri.go.jp）

※ 院：大学院、学：大学、高校：高等専門学校（研究所が同等と認める機関を含む）